

事業名 CD	0106010413	市民農園運営事業
細分化した事業名		
事業担当課室 CD	300100	農林課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり
	中項目	環境と調和した農林業の振興
	小項目	農林業の振興
関連する個別計画等		根拠条例等 市民農園条例
関連する事業	遊休農地解消総合対策事業	

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	農作物の栽培収穫体験を通じて、農業・食糧の大切さについて市民の理解を深める。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	農地を所有しない者(市内外を問わない)
これまでの改善経過	平成10年 日の城・宮久保農園 40区画(30㎡/1区画)整備 平成13年 若尾農園 20区画(40㎡/1区画)整備 宮久保農園 10区画(40㎡/1区画)増設 平成16年 若尾農園 4区画(40㎡/1区画)増設 平成21年3月末 日の城農園(閉鎖) 20区画(30㎡/1区画)閉鎖 *全農園に、東屋・機具庫を設置
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 ■市 ■委託 □補助金 □その他() 遊休農地を市民農園として借受け、定額で貸付ける ○農園名 日の城農園 30㎡×20区画 宮久保農園 30㎡×20区画・40㎡×10区画 若尾農園 40㎡×24区画 ○借受け料 日の城農園 36,800円(年額) 宮久保農園 74,600円(年額) 若尾農園 50,200円(年額) ○利用料 30㎡区画/4,800円(年額) 40㎡区画/6,000円(年額) ○啓発 ホームページ・広報 ○期間 毎年4月1日から翌年3月31日まで(同一区画の継続利用可能) ○申込方法 窓口にて随時
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	①自ら作物を栽培することにより、農業を理解し関心を高めてもらう。 ②安全・安心な作物を食することができる。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度		21年度		22年度	
A	事業費 (千円)	640		623		638	
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	市債						
	その他	328		299		265	
	一般財源	312		324		373	
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00	0.10	0.00	0.18	0.00	0.23
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	691		1,228		1,545	
D	総事業費(A+C) (千円)	1,331		1,851		2,183	
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	117 円		H22)市民1人当りの行政サービス費用		599,027 円	

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	整備区画数	(区画)	74	74	54
	貸付区画数	(区画)	63	54	45
成果指標	貸出区画率	貸付区画数/整備区画数(%) (54区画/74区画)	85.13	72.97	83.33
	予測利用者数 (1家族2.5人利用想定)	貸付区画数×1区画予測利用者数2.5人 (54区画×2.5人)	158	135	135
効率指標	1区画の維持管理費 (建設費・造成費は除く)	総事業費/総区画数(円) (637,701円/54区画)	8,645	8,416	11,809

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 市民農園の利用率は高い水準にあり、需要が高い。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 農作物を育てる農業体験により、地域と都市との交流が図られている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 日之城農園を閉鎖したため、一区画あたりの管理費は増加しているが、更なる効率化を図る。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 農業をする機会を提供し、体験してもらうことで、農業に対する理解を深めてもらい、農業発展に寄与する。	(2) 24年度 設備や器具の充実を含めた運営内容の見直しをおこなう	(3) 23年度 利用者からのアンケート結果等を積極的に活用し、設備や器具の充実を含めた運営内容の見直しをおこなう。
	22年度の改善計画 利用率の低い農園に関しての閉園を含め運営等の検討をする。		
	22年度の改善結果 利用率の低い日之城農園を閉園し、利用率を改善した。		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 利用者の、農園管理に対する意識向上			
課長所見	費用対効果等を踏まえ、利用率の低い日之城市民農園を閉園した。今後は利用者アンケートを反映した満足度の高い市民農園の運営に努めると共に、空き区画の周知を図り、非農業者の農業に対する関心を高め、農作物の収穫とふれあいの場を提供していく。		